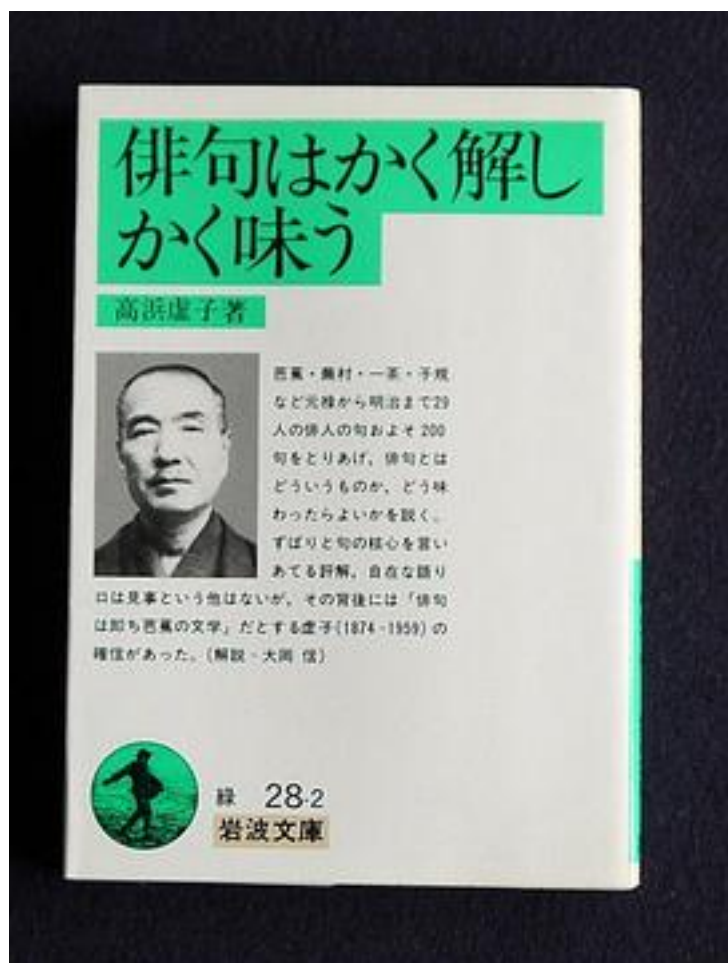


俳句はかく解しかく味う



[俳句はかく解しかく味う 下载链接1](#)

著者:高浜 虚子

出版者:

出版时间:1989-10-16

装帧:平装

isbn:9784003102824

芭蕉・蕪村・一茶・子規など元禄から明治まで四十六人の俳人の句およそ二百句をとりあげ、俳句とはどういうものか、どう味わったらよいかを説く。ずばりと句の核心を言いあてる評解，自在な語り口は見事という他はないが，その背後には「俳句は即

ち芭蕉の文学」だとする虚子（一八七四―一九五九）の確信があった。（解説 大岡信）

--このテキストは、絶版本またはこのタイトルには設定されていない版型に関連付けられています。

作者介绍:

目录:

[俳句はかく解しかく味う_ダウンロード1](#)

标签

俳句

评论

虚子在整个本书的解说中都贯穿着客观写生的思想 或许是这个原因 选句的偏向性很大 芭蕉芜村就不提了 子规的作品占了很大篇幅 可惜一茶的就很少 个人觉得很可惜 然而“餅搗が隣へ来たといふ子かな”这句还是看得我泪目了

[俳句はかく解しかく味う_ダウンロード1](#)

书评

[俳句はかく解しかく味う_ダウンロード1](#)